

しつけと虐待

しつけ(躾)は「身」を「美しく」すると書きます。前号にも書きましたが、子育ての目的は「自立」です。社会生活を営む上で大切な事柄(礼儀作法など)を身に付けさせるのも、自立のために大切な躾です。

「挨拶をきちんとしなさい」「今は静かにしなさい」「宿題をしなさい」「親の言う通りにしなさい」…なかなかすぐ出来ない場合もあるでしょうね。出来るように教える、してはいけないことをした時に注意する、叱る…これは大事なことです。

自発的にした行動に対して、外部から自分にとって不都合な出来事や嫌なことが起こると、その行動を繰り返さなくなります。してはいけない事をした時に叱られるなど何らかの罰が与えられれば、その行動を自発的に起こさなくなるということです。

大切なのは、その罰の質です。躾の目的も「自立」つまり「自分で生きる」ということですから「生きる」ということを阻害するものであってはなりません。「衣」…寒さ暑さを防げない、「食」…食べ物を与えない、「住」…眠らせない・寝られない状況にする、「体」…殴る蹴る・傷付ける、「心」…怒鳴る・なじる・辱めるなど、例え「この子のためを思って」であっても、これらが継続的に行われれば、人として生きる力が損なわれます。つまり、これらは躾ではなく、虐待・体罰となります。

子どもは生まれた時から、親の顔とそれ以外を区別できるということが分かってきました。もちろん「優しい顔」と「怖い顔」も分かります。子どもは親の「優しい顔」を求めて頑張ります。ですから親の「怖い顔」だけでも十分効果的なのです。

叱るとセットで大切なのは褒めるという行為です。

自発的にした行動に対して、外部から自分にとって好都合な出来事や好ましいことが起こると、その行動を繰り返すようになります。教えられた事が出来た時に褒められれば、その行動を自発的に起こすようになるということです。

悪い行いは怖い顔で叱る、善い行いは優しい顔で褒める、このバランスが重要です。

しかし、親も大人も人間です。自分のストレスのはけ口を弱い対象に向いてしまう状況が起らぬとも限りません。ダメだと分かっていても手をあげてしまう、そんな自分を責めながらも繰り返してしまう…そんな場合は相談してください。

また、何度も言つても分からず、言うことを聞かない…子どもに隠れた発達障害がある場合もあります…相談しましょう。

子育ての中心は親かも知れませんが、子どもは地域社会で育てるものです。自分で育てなくてはならないと思わず、知恵を借りましょう。協力を願いしましょう。

よその子も我が子と同じ!! 「良くできたね」と褒め「ならぬものはならぬ」と叱りましょう!!